

令和6年度 都立南多摩看護専門学校 学校関係者評価

学校評価項目8項目について、学校関係者の評価平均点は以下のとおりである。
全項目、評価基準「満たしている」以上の評価であり、改善に関する意見はなかった。

評価項目	評価 (小数点第一位)	評価コメント
I 学校運営	3.8	以下の取組が評価された結果と考える。 ・都民の健康の担い手たる看護師の育成という理念に基づき、教職員全員が年度当初に組織目標を共有し、カリキュラムの内容や学年運営の方針等の具体的な業務目標に反映させていること。 ・学校運営に関わる意思決定については、定期的に開催する学内運営会議、教務会、リーダー会等において、内容・職層に応じた意見交換・情報共有を行って。また、情報内容や目的に合わせて、随時、ミーティングやメール、Teams等を活用してスピーディーな情報共有を図っていること。
II 教育課程・教育活動	3.8	以下の取組が評価された結果と考える。 ・教育課程の内容や指導方法について、令和4年から導入した新カリキュラムの意図を着実に反映できるよう、担当者会やリーダー会、都立看護学合同の授業研究等で、随時、評価・検証を行い、教務会で課題や対応策を検討の上、次期課程に反映させていること。 ・教育内容・評価に関する学生の理解を促し教育効果の向上を図るため、3年間のシラバスについて授業科目・授業時間等一覧表をホームページで公表し、成績評価の方法・基準等について、年度当初のオリエンテーション等で学生に周知していること。また、授業アンケート結果を学生に公表しカリキュラムや指導体制に反映させていることとしていること。 ・実習時の医療安全対策について、教員・学生にインシデント報告書の提出を義務付け、迅速に学内全体で共有し再発防止を図っていること、各実習施設の感染対策方針を踏まえた実習施設別個別マニュアルを作成していること。
III 学習成果	3.7	以下の取組が評価された結果と考える。 ・学生への対取得に向けた支援策について、成績低迷者を対象に夏・冬の長期休暇前に集中的に強化学習を実施していること。また、未修了単位保持者のフォローのため、随時面接を行い、学習習慣の改善を図っていること。 ・国家試験対策について、1学年次から全国模試を導入し弱点の把握とその克服を喚起するとともに、3学年後半の追い込みでは、国試対策の補講やショートテストの日々配信などの集中強化策を実施したこと。 ・退学率の低減策として、未修了科目や欠席の多い学生には随時、面接を行い個別の支援を実施するとともに、必要に応じ家族面接を実施して理解と協力を求めていること。指導困難な学生が増加する中にあっても退学率を3%以下に止めていること。
IV 入学・卒業対策、就職・進路支援	3.7	以下の取組が評価された結果と考える。 ・推薦入試合格について、入学までの継続学習支援と円滑な看護学校生活への移行支援として、授業参観及び現1年生との交流会を開催し、好評を得たこと。 ・就職支援について、1年次からキャリア教育を実施し早期から学生の個性や希望を踏まえたきめ細やかな支援を実施し、令和6年度卒業生(28回生)は内定率100%、都内就職率100%であったこと。 ・卒業生の早期離職防止のための支援として、7月にホームカミングデイを実施するとともに、既卒者の国家試験対策支援や進路・就職相談を実施していること。
V 学生生活への支援	3.7	以下の取組が評価された結果と考える。 ・学生の健康管理について、校医、健康相談担当員及び臨床心理士の資格を有するカウンセラーによる心身の健康支援体制が整えられていること。 ・学生の自主的な活動を支援するため、学生サークルグループに体育館等の施設・設備を開放し便宜を図っていること。学校祭や体育祭等の学校行事について、学生の意向や自主性を重視した運営を行い、学年を超えた交流や地域との交流を図っていること。
VI 財政、施設設備の管理	3.5	以下の取組が評価された結果と考える。 ・施設・設備や演習教材等については、定期的な保守管理を実施し、故障や汚損・破損があった場合は迅速に専門業者による修繕を行っている。また、危機管理マニュアルに従い、全職員・学生による防災訓練や臨地実習先からの緊急連絡訓練の実施、災害に備えた職員・学生の食料・飲料水等の備蓄状況等が評価されたものとする。
VII 教職員の能力向上	3.7	以下の取組が評価された結果と考える。 ・学会参加については、公費での年間の学会参加希望を募り、計画的・公平な自己研鑽機会の確保に努めていること。研修成果は、教務会等で学会参加報告を行って還元していること。 ・毎年8月に、教職員から募集したテーマで職場内研修を実施しており、今年度は、発達障害に含まれる疾患の特徴と学生指導の留意点等について実例を交えた講演を開催したこと。 ・各カテゴリーで教育目標を達成できるように授業案や実習指導方法などを検討し、連携しながら取り組んこと。また、新任教員(看護教員採用1年未満。令和6年度は3名)の育成について、プリセプター教員による、年間を通じた講義や実習指導、その他の教育活動の支援を行ったこと。
VIII 広報・地域活動	3.2	以下の取組が評価された結果と考える。 ・学校説明会を5回開催し延べ395人の参加があったこと、高等学校等で開催される校外の学校説明会は20回実施したこと。 ・ホームページを随時更新により学校情報のタムリーに発信に努めたこと。ホームページに学生手作りの学校広報動画「魅力発信プロジェクト」を3本追加し、計15本の動画を公開(延べ再生回数1万5千回超。令和7年3月初現在。)したこと。動画は、「社会人学生編」や「ママさん学生編」など学生目線での切り口で編集されており、学校説明会や学校祭でも活用されて、PR活動を効果的に行うことができた。
IX 独自項目		今年度は特に設定しなかった。

※学校関係者評価委員 6名